

中央手術部

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長（教授）小西 宏明
副部長（准教授）五十嵐 孝
医員（講師）丹羽 康則

2. 中央手術部の特徴

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。手術室の構造は回収廊下型となっており、清浄度クラス1000の手術室4室とクラス100の手術室が13室の合計17室で構成されている。その他産科専用手術室2室（平成19年から閉鎖中）、子ども医療センター手術室2室が追加された。

（1）診療記録の電子化

平成14年の新棟移転にともない、病院情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化がおこなわれ（J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System）、平成18年からは院内の電子カルテシステム（JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program）と連携しており、手術申し込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となった。ただし物流システムとのオンライン化は行っていない。

（2）中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、医師2名（兼務）と選任の看護主任を配置し、委託業者と共に手術機器の点検、消毒業務を行っている。

（3）先端医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

手術件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
H22年度	748	601	775	758	742	719	785
H23年度	728	697	805	783	849	787	743
H24年度	749	776	777	747	815	686	797
手術件数	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
H22年度	768	703	687	723	644	8,653	
H23年度	780	704	685	795	813	9,169	
H24年度	735	652	664	682		8,080	

4. 事業計画・来年の目標等

手術件数の適正化はここ数年の継続課題であるが、昨年度の手術件数の急増を受けて平成24年度当初に副病院長をリーダーとする手術適正化WGが立ち上がった。約2ヶ月にわたる現場のヒヤリングを経て、1. 大学病院で行うべき手術を優先していくこと、2. 手術申込時間を正確にしていくことが提言された。

改めて課題として浮かび上がったことは、緊急手術の負担が麻酔科のみならず外科系診療科においても大きいことであった。自明のことではあるが、高次医療機関としての使命を果たすためには、緊急手術に関しても地域の病院との連携が不可欠である。今後は特に当院との関係が深い関連病院との連携強化を行う。